

応募作品11,698点 ますます内容が充実

— 昭和62年度茨城県統計グラフコンクール —

第38回を迎えた茨城県統計グラフコンクールは、質・量ともますます充実し、応募作品は11,698点を数えた。県審査は、県内5地区から選ばれた優秀な作品について行われたが県審査の対象となった作品はいずれも優劣のつけ難いものばかりで、2日間にわたる慎重な審査により66点の入賞作品が選ばれた。

そこで、審査にあたっての選評と知事賞受賞作品をご紹介します。

選 評

審査員 茨城県教育研究会統計教育研究部長

島 田 誠

21世紀に向けて高度情報化社会の到来が叫ばれている今日、積極的に情報を収集したり、その処理にあたる場合、統計的見方・考え方や統計的に処理する能力の重要性が一層増大してきたといえます。

このような統計に関する社会の要請がある中で、今年度の「茨城県統計グラフコンクール」が開催され、その応募作品が11,698点、参加人数が21,311人を数え昭和24年第1回茨城県グラフコンクール実施以来最高の応募点数を記録したわけで「統計茨城」の名にふさわしい結果であるといえます。

誠に喜ばしいことであります。

本年は、回を重ねて早くも第38回を数えるに至り、ますます作品の内容が充実して参りました。これまで統計思想の普及に尽力されてこられました茨城県企画部統計課並びに茨城県統計協会の方

々に対し心から敬意を表します。また、統計グラフコンクールの教育的意義を十分に理解され、直接児童・生徒の指導に当たってられました県内関係小・中学校の先生方に対し深く感謝申し上げます。

本県は、第35回統計グラフ全国コンクールにおいても、入選作品7点、佳作作品4点の計11点が入賞し、応募作品点数と併せ考えますと全国的に高い水準にあるということが出来ます。

次に、今年度の応募作品の傾向をみますと、日常の家庭生活や学校生活の中から身近な素材を選んだり、テレビや新聞・雑誌等マスコミからの情報を素材としてまとめた作品が多くありました。

このようにして作品を制作する過程で統計的な見方・考え方が深化され、また表現技術も向上し、ますます作品の質が高まってきております。

最後に、県審査会の席上指摘された次の事項について指導の際留意されるよう願っております。

(1) グラフ表示上の基本的事項を確実に踏まえさせること。

基準を表わす0表示、名数の単位表示、円グラフでの総数表示、用字・用語の正しい表記。

(2) 学年の発達段階に応じたグラフ表現を活用させること。

円グラフや帯グラフの使用は、小学校低・中学年には無理。

(3) 仕上がり後の最終点検を確実に行うようにさせること。

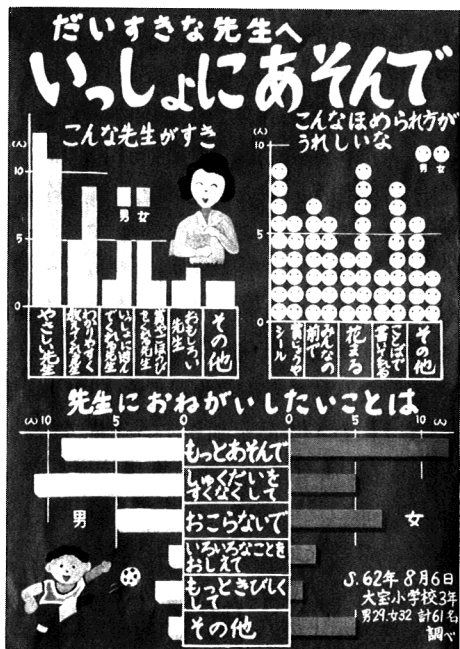
用紙の大きさの規格、誤字脱字、統計表との再照合など。

茨城県統計グラフコンクール応募状況

	総数(点)	第1部	第2部	第3部	第4部	第5部
昭和58年度(第34回)	11 230	3 617	5 063	2 543	1	6
59(第35回)	11 922	3 922	5 857	2 136	1	6
60(第36回)	10 693	3 762	5 401	1 525	2	3
61(第37回)	10 403	3 686	5 165	1 549	1	2
62(第38回)	11 698	4 365	5 952	1 376	1	4

知事賞受賞作品

《第1部》



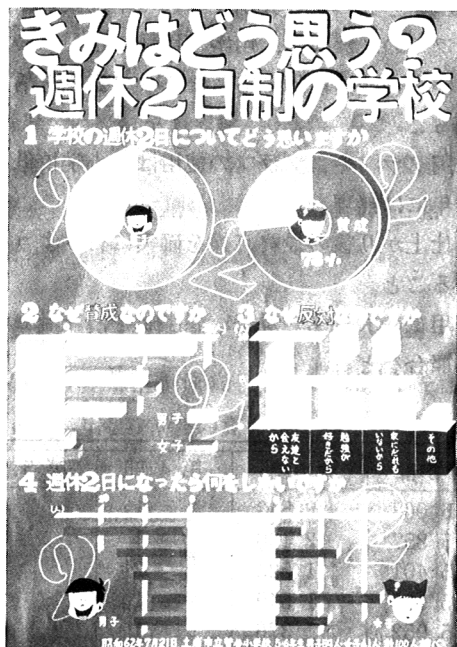
「だいすきな先生へ
いっしょにあそんで」

下妻市立大宝小学校

3年 中野孝裕

やさしい先生に教えていただくことは、小学生の大きな願いです。3年生の先生への希望を要領よくまとめ、明るい色彩で表現してあります。グラフの配置も適切です。

《第2部》



「きみはどう思う？
週休2日制の学校」

土浦市立菅谷小学校

5年 工藤靖顕

5年 佐山竜一

5年 蓮田誠

学校の週休2日制も話題になりつつあり、やがて実施されることでしょう。この問題を先取りし、児童の考え方を要領よくまとめました。楽しい主題ですね。

《第3部》



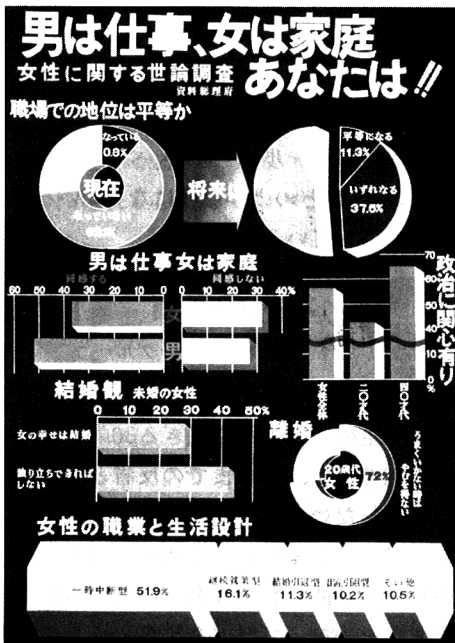
「増える高校中退者」
— 進学は目的をもって —

結城市立結城中学校

- 3年 三浦 徹也
- 3年 増田 勝治
- 3年 石島 隆広

現在、大きな問題となっている高校中退について、要領よくまとめてあります。全体の構成、レタリングも適切で、特に、中段にタイトルを位置付けたことは、素晴らしいアイデアです。

《第5部》



「男は仕事、女は家庭
あなたは!!」

友部町大田町1065-2

稲野辺 敏明

第5部にふさわしい力作で、全体のレイアウト、色彩、レタリングともすばらしく工夫されています。女性の社会的地位向上に関する関心が高まっているところから、時宜を得た作品です。

新春 雑感



新しい手帳を手にして

庶務グループ
中 嶋 定 信

今年も新しい年がきた。それも辰年だという。? 回目の年男である、抱負など特にない。健康でゴルフができれば良しと思うくらいである(だが、希望はありますよ!)が、毎年のことだが新しい手帳(県民手帳)を手にして一言、まず、最初に御用始めと書き込む、新年がきたのかと引き締まった気持ちになる。

手帳は言わば、持ち運びができ、どこでも使えるフロッピー。スケジュール、記録、情報など、ところ狭しと余白がないほどぎっしり書き込まれている手帳、こんな手帳であればと、毎年思いつつ使っているが、予定表だけで終わってしまっている。

しかし、仕事のことばかりで埋まっている手帳もよいが、その一方では、仕事に関係ない自分自身のことを書き込める余裕もありがたい。たとえば、四季折々の季節感とか、ゴルフの反省の記録とか!、良い手帳を上手に利用したいものである。



36 歳

統計指導グループ
山 本 和 夫

というわけで、4 回目の辰年を迎えました。

30歳を過ぎたころからでしょうか、自分の年齢がとっさには頭に浮かばなくなっていました、この機会に頭に刻み込んでおこうと思います。

平均寿命からみれば、ちょうど人生の折り返し点です。ところが子どものころの1年に比べると30代の1年はずっと短く感じられます。このぶんできくとこれからの1年1年はもっと短く感じられ、後半生は前半の半分もないのではないかと心

配になります。

限りある時間、大切にしたいものです。



顔
企画分析グループ
中 根 幸 一

新年あけましておめでとうございます。

最近ふと鏡で見る自分の顔が気に入らないことがある。四角くてやや大きめの顔に小さい目、低い鼻、だぶついた顎、どう見ても美形とは言い難い。しかし、今更そんなことが気に入らない訳ではない。私の気に入らないのは、顔からにじみ出てくる雰囲気、表情なのである。顔は、他人に対して自分のことを最初に印象付けるものであり、その人がどのように生きてきたか、或いはその人の地位というようなものによって作られるものであると思う。そういう意味から、今の自分の顔は年相応の顔をしているのか、まだ20歳の時のような顔をしているのではないかと疑問を持つのである。「お前は、この36年間を精一杯生きてきたのか?」と問われると、甚だ自信がない。

幸い今年辰年、私の干支である。天にまでも昇ると言われる龍にあやかり、この1年を一生懸命頑張り飛躍の第一歩としたい。次の辰年は西暦2,000年、その時どのような顔になっているのかから楽しみにしている。



年男の反省
企画分析グループ
川 尻 実

今年人生のほぼ半分を過ぎる36歳を迎える年男になる訳ですが、いままでの反省と今後の課題について話したいと思います。

さて、私の半生は何にでも興味を持ち、集中的に熱中し、短期間のうちにある程度水準になるともう興味を失なって努力を放棄してしまう繰り返

